

富田林市における祭礼空間の分析

渡辺秀斗・吉川 眞・田中一成

Analysis of Festival Space in Tondabayashi City

Hideto WATANABE, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

Abstract: The festival is a valuable event historically that has been inherited and conducted for a long time by the cooperation of local residents. In the historical transition, some festivals changed their forms. On the other hand, any festivals have not changed their forms up to the present. For many people, the festival is an opportunity to enjoy urban space changed to the stage of "hare" form "ke" as the daily life. In this study, the authors define the festival space in where various elements related to the festival can be seen, and analyze the festival space expanding to urban space.

Keywords: 祭礼空間 (festival space), 都市空間 (urban space), 歴史的変遷 (historical transition)

1. はじめに

わが国の各地域では、風土を反映して多様な市街化の過程をもつ都市空間が形成されてきた。その過程のなかで、地域の独自性が見られるような祭礼空間が創出されている。地域の独自性が現われる祭礼空間に着目しながら都市の歴史的変遷を理解していくことは、重要である。

祭礼空間は古くから地域住民の手によって担われ、人々の生活との関わりを持ちながら現代に至っている。近年、伝統的な祭礼行事が町おこしや村おこしとして見直されており、神社や寺院などの祭礼空間が再び多くの人々の脚光を浴びている。そこでは、多くの人々が身近に存在する祭礼空間に親しみを持つとともに、何らかの形で祭礼行事に参加している。

柳田國男によって見出された、時間論をともな

渡辺秀斗 〒585-8585 大阪府大阪市旭区大宮 5-16-1

大阪工業大学大学院 工学研究科

都市デザイン工学専攻

Phone: 06-6954-4109

E-mail: mlm15109@st.oit.ac.jp

う日本人の伝統的な世界観の一つとして「ハレ」と「ケ」がある。「ハレ」は儀式や祭り、年中行事などの非日常を表し、「ケ」は普段の生活である日常を表している。祭礼空間は、ハレの日になると数多くの人々が訪れ、祭礼行事に触れる機会が設けられる。祭礼空間というと、神社仏閣がイメージされるがその他にも祭礼空間になるものがある。

関西地方を中心に行われるだんじり祭りを取り上げる。だんじり祭りは神社の境内だけで行われる祭りではなく、各氏子町を曳行する形態をとっている。だんじり祭りのように各氏子町を曳行するような祭りを都市内で展開される祭りとして捉えることができる。都市内で展開されることで、普段私たちが利用しているような道路も、祭りのときには祭礼空間として機能することになる。さらに、祭礼を感じることができる場所も祭礼空間として捉えられることから、祭礼が行われる場所だけでなく、眺められる場所も祭礼空間の一部となる。このように祭礼空間を都市空間の視点から捉えるとさまざまな場所が考えられる。

2. 研究の目的と方法

今日、都市の魅力が失われてきていることが懸念されている。都市における効率性、利便性だけを追求するのではなく、各々の都市に存在する固有の文化的な要素を見つめ直すことは、都市の独自性を取り戻す上で効果的な方策であると考えられる。

本研究では都市固有の文化的な要素の中でも「祭礼」を取り上げている。とくに、祭礼が行われる空間、祭礼に関するさまざまな要素が眺められる空間を「祭礼空間」として捉え、これを分析・把握することにする。研究に取り組むにあたって重要な点は、地域固有のまちづくりや祭礼行事などを、現代に残された史料や祭りから捉え、GISに代表される空間情報技術を用いて示していくことである。GISを用いることにより、地図上に神社・仏閣の位置や氏子地域などを定位し、祭礼が富田林市内でどのように広がっているかといったことを空間的に把握することが可能である。

3. 対象地の選定

本研究では大阪府富田林市を対象地としている。富田林市は大阪府の南東部に位置し、都市化の進展とともに成長してきた都市である。

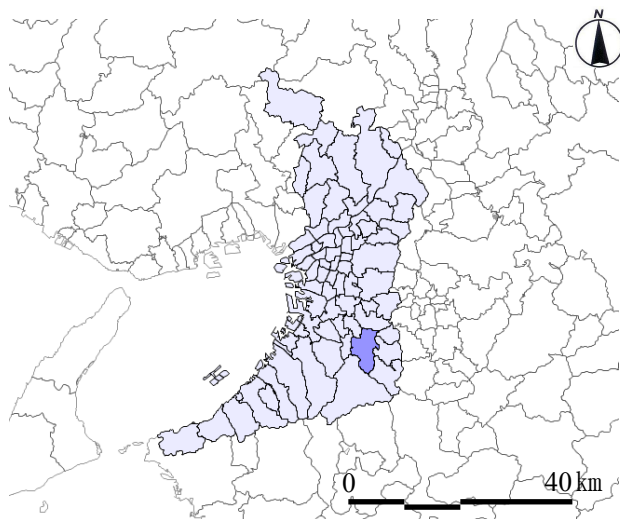


図-1 富田林市位置

市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けた場所である。一方、市の南部は、雄大な金剛・葛城連峰を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、自然景観にあふれている。西部丘陵地域は計画的に開発の進んだ環境水準の高いニュータウンとなっている。富田林市には国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町がある。寺内町とは室町時代に浄土真宗などの仏教寺院、道場（御坊）を中心に形成された自治集落のことである。重要伝統的建造物群保存地区に指定されている寺内町は富田林市寺内町と奈良県の今井町寺内町の2カ所のみであることから、富田林市寺内町が歴史的に重要な拠点であることがわかる。このように富田林市は、昔から河内における重要な都市であったことが把握できる。

4. 神社仏閣

4.1 分布

祭礼空間を捉えていくにあたって、まず富田林市に分布する神社仏閣を把握する。

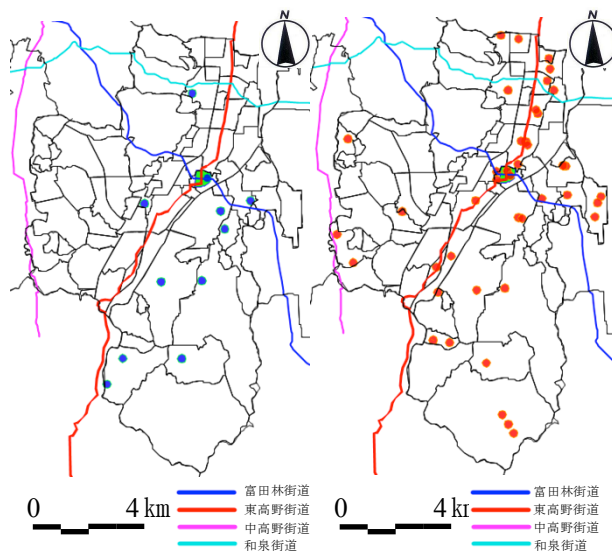


図-2 富田林市の神社（左）・寺院（右）分布

現在、神社は11社存在しており、分布状況を見ると市を南北に横切る東高野街道沿いに分布している（図-2）。また、寺院は39寺存在しており、寺院の分布状況を見ると、神社と同様に東高

野街道沿いに寺院が分布している（図-2）。これは、東高野街道が京都から高野山へ参拝に行くための主要道路であったことで、東高野街道沿いにある神社・寺院が宿坊として僧侶や神職の宿営や休息の場となっていたことによる。

4.2 祭礼

富田林市の神社仏閣における祭礼を季節ごとに把握する。対象としている神社仏閣は、神社 11 社と滝谷不動尊明王寺、興正寺別院である。数ある寺院のなかで、この 2 寺の祭礼を把握できていることから選定している。

表-1 神社仏閣の祭礼

春季(3～5月)			夏季(6～8月)		
神社・寺院	月日	祭礼名	神社・寺院	月日	祭礼名
美良久留魂神社	3月1日	祈年祭	美良久留魂神社	7月15日	夏祭り
	4月15日	春祭り	成古神社	7月20日	夏祭り
	4月20日	春祭り	春日神社	7月12日	夏祭り
	4月30日	春大祭	佐備神社	6月30日	夏祭り
	4月4日	神宇祭	滝谷不動尊明王寺	7月18日	観世音夏祭り
金刀比羅神社	4月10日	花祭り		8月24日	地蔵盆
	3月28日	縁日			
	4月8日	釈尊降誕会 花まつり			
	4月28日	縁日			
	5月28日	春季大祭 柴燈大護摩供			
興正寺別院	4月14日	春季祭り			
秋季(9～11月)			冬季(12～2月)		
神社・寺院	月日	祭礼名	美良久留魂神社	月日	祭礼名
美良久留魂神社	10月14～16日	秋祭り		12月1日	新嘗祭
	10月17日	秋祭り		1月1日	歳旦祭
成古神社	10月23日	新嘗祭		2月3日	節分祭
	10月15～16日	秋祭り	成古神社	12月1日	歳旦祭
板茂神社	10月7日～9日	秋季大祭	春日神社	12月15日	新嘗祭
春日神社	10月7日～9日	秋季大祭		1月1日	歳旦祭
錦織神社	10月14～16日	秋祭り	錦織神社	12月1日	新嘗祭
佐備神社	10月15～16日	秋祭り		1月1日	歳旦祭
金刀比羅神社	10月15～16日	秋祭り	佐備神社	1月1日	歳旦祭
大伴黒主神社	10月15～16日	秋祭り	金刀比羅神社	12月10日	祐十日祭
滝谷不動尊明王寺	9月28日	秋季大祭		1月1日	歳旦祭
	11月1日	七五三祈禱会	富栄神社	1月9～11日	十日市
				12月28日	納め不動
			滝谷不動尊明王寺	1月1～7日	修正会・新年護摩修行
				1月28日	初不動大法会
				2月3日	節分金・厄除け大祈願祭

春祭りは、米作における豊作を神様にお祈りする祭りである。祈年祭は一年の五穀豊穰などを祈る祭りであり、春祭りの性格を代表する祭りといえる。夏季の祭礼は他の季節と比べて少なく、お盆・七夕などが絡んだものがある。農村社会では夏季の農事による労働の疲れに関わる行事、都市社会では、江戸時代以前の夏季の疫病封じ、その死者を弔う行事を起源とするものがある。秋祭りは、主に農村地帯において収穫を感謝する祭りである。富田林市では秋季にだんじり祭りが行われ、都市に賑わいが生まれる。冬祭りは、秋祭りが持つ収穫祭的要素と春祭りが持つ祈年祭的要素の両方を併せ持っている。

5. 祭礼空間の把握

祭礼空間を把握していくにあたって、本研究では、祭礼が行われる空間、祭礼に関するさまざまな要素が眺められる空間を「祭礼空間」と定義し、都市空間に祭礼空間がどのように広がっているかを季節ごとに把握する。まず、祭礼空間を示すベースとなる地図を作成した。地図には神社・寺院の分布、街道、神社の氏子町を定位しており、これより祭礼空間が広がる可能性がある場所を把握できる。さらに、季節ごとに祭礼空間を重ねて示していく。祭礼空間の示し方として、祭礼が行われる神社・寺院を赤点でプロットし、露店のような弱い祭礼空間の広がりについては青色で示している。

5.1 春季の祭礼空間

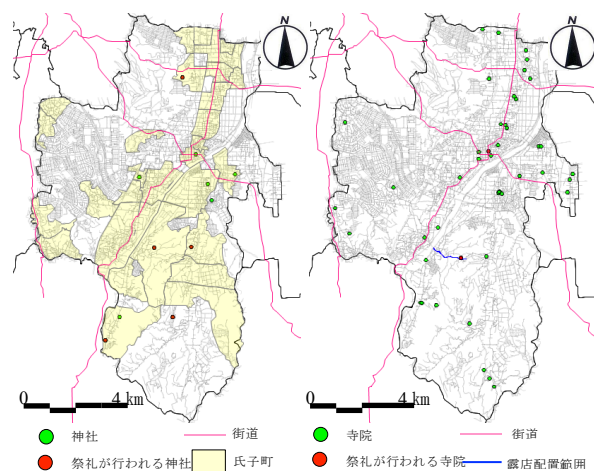


図-3 春季の祭礼空間 神社（左）・寺院（右）

春季の祭礼において都市空間に広がる祭礼空間は、毎月 28 日に行われる滝谷不動尊明王寺の縁日の露店と、春季大祭で行われる修験大練供養の修験者行列であり、これら以外の祭礼は各神社・寺院の境内で行われている。修験者行列については、行列を眺められる空間を祭礼空間として捉えるので、可視・不可視分析により行列によって形成される祭礼空間を見出している（図-4）。

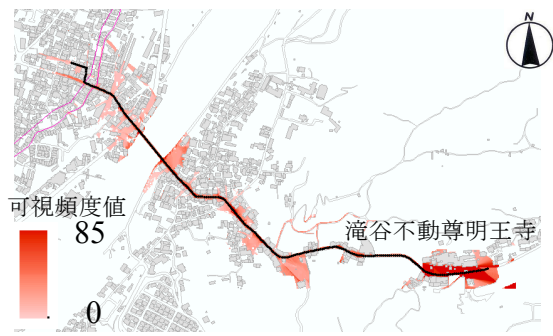


図-4 修験者行列の可視領域

5.2 夏季の祭礼空間

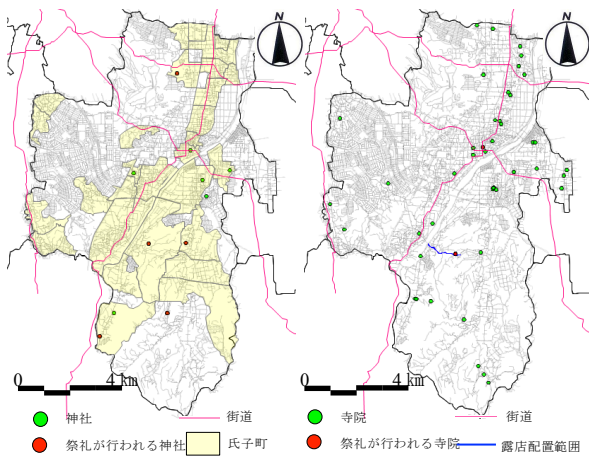


図-5 夏季の祭礼空間 神社(左)・寺院(右)

夏季の祭礼は他の季節と比べて少ない。都市に広がる祭礼空間としては、滝谷不動尊明王寺の縁日の露店のみである。

5.3 秋季の祭礼空間

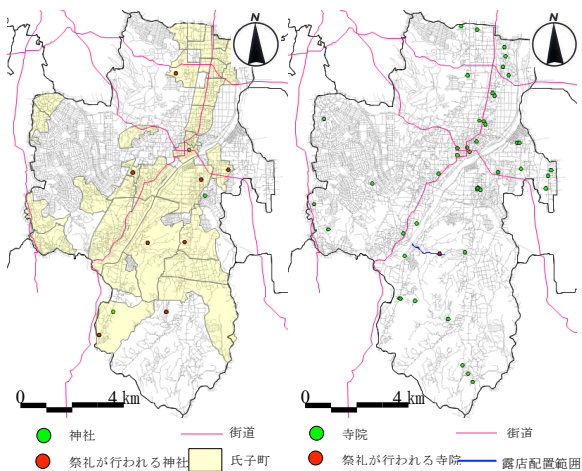


図-6 夏季の祭礼空間 神社(左)・寺院(右)

最も都市空間に祭礼空間が広がるのは、10月に行われるだんじり祭りである。各氏子町を巡行することで、だんじりが眺められる空間が生まれ、これが祭礼空間として都市空間に広がることになる。

5.4 冬季の祭礼空間

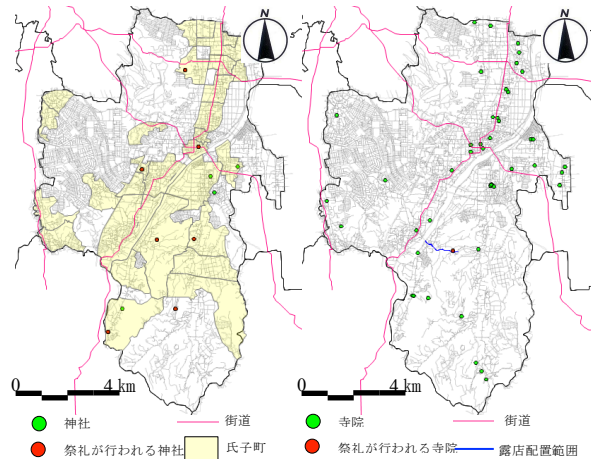


図-7 冬季の祭礼空間 神社(左)・寺院(右)

冬季は最も多くの祭礼が行われる季節ではあるが、祭礼空間は各神社・寺院の境内がほとんどである。

6. おわりに

本研究では、神社仏閣の分布や祭礼から、都市空間に広がる祭礼空間の把握を行った。また、市西部のニュータウン地域には神社や寺院がないため、四季を通して祭礼空間の広がりがなかったことが把握できた。

道祖神や地蔵菩薩など、祭礼空間を形成する要素となるものは他にも考えられる。今後は、それらも含めて都市空間に広がる祭礼空間を分析・把握していくことにしている。

参考文献

渡辺秀斗・吉川眞・田中一成(2015):都市における祭礼の分析と把握, 地理情報システム学会講演論文集, 24, C-3-2. (CD)